

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂 石内医院		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	輝輝館
所在地	宮崎県延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様が安心して生活していただき、できる限りお1人お1人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い園庭には実のなる木や四季折々の木々が植えられ季節の移り変わりを感じ取ることが出来、その中で利用者は自由に散歩できる環境になっている。職員は利用者の日々の暮らしの、その時その時を大切にいきいきと楽しんでいると感じてもらえるかを考え工夫や努力を惜しまず支援に取り組んでいる。医療連携も整っておりこまめな往診や緊急時・重度化の対応も期待でき利用者・家族から安心と感謝を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議で事業所の理念を唱和している。繰り返し唱和することで改めて初心に戻るように心掛け、また支援を行う中で迷ったりしたときには理念に立ち返り検討し、実践につなげられるように努力をしている。	設立時の基本理念「今を喜ぶ」を大切に日々支援に努めている。前回の評価時を機会にホーム全体の課題とし問題点、改善点等話し合いの場を設け実践に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、お花見や夏祭りなど施設外の方はお呼びしていない。ただ、回覧板などで地域の行事などは何が行われているかなどは理解している。散歩等をしているときには近隣住民と挨拶などはしている。	地域の小学校の駅伝大会ではフェンス越しに皆で応援を行っている。又地区のクリーン作戦には職員が参加し地域の一員として関わりを持つ努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに区長や民生委員などが来られているので、その場にて様々な情報を提供している。ただ地域全体に情報がいきわたっているかは不明。地域の方々との交流はコロナ禍でほとんどできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行われているが、管理者のみが出席し、スタッフの参加はない。しかし会議では状況報告や意見交換などを行っていることは議事録の回覧があり確認している。	会議には区長や民生委員、薬局の方等多彩なメンバーの参加があり、各々情報を受けサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とのやり取りは管理者が行っているため、介護スタッフは行っていない。市からの情報は管理者からスタッフに伝えている。	認定調査についての相談や意見を貰ったり、行政と家族との連絡調整をする等協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勉強会などではいけないことを理解している。現在も身体拘束をしている方はいない。しかし、門扉に関してはスタッフ数が少ないことなどがあり、しまったままになっている。	利用者はユニット間を自由に行き来できている。広い敷地内を散歩したり落ち葉拾いをする利用者を職員はさりげない見守りをしながら自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修や勉強会で虐待防止に向けた勉強や意識の向上を行っている。またその内容をスタッフ全員に周知し、虐待防止につなげている。入居者様の身体に異常がないかも確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に権利擁護に関する勉強会があり、少し学んだが、ここ一年では学ぶ機会を得ていない。 過去に受講した実践者研修の時には深く学んだが今は忘れてしまっているのが現状である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する家族等への説明は管理者がほとんど行っているため、詳しくは分からない。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご家族からのご意見を聞く意見箱を設置しているが、意見が投かんされたことはない。 ご家族が利用料を持ってこられたときにご意見を伺うように気を付けている。	利用料を持参して頂くことで面会をする事や意見・要望を引き出す機会としている。 出された意見や要望はサービス向上に生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる定例会の場において、スタッフからの提案や意見を聞く場が設けられているので、反映されていると思う。 また個別の相談なども話を聞いてもらっている。	連絡ノートを活用し、出された意見は定例会議やユニット会議に於いて話し合い運営に反映させている。最近の意見では職員の休みについて話しあい反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の重度化が進んでおり、スタッフ数の不足を感じることもある。その為スタッフ全体が疲弊しているように感じる。やりがいや向上心を持って働く余裕がない状況である。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、スタッフ全員が外部研修を受ける機会が設けられている。少しずつではあるが知識を身に着けることが出来ていると思う。また、研修後に報告会を行い、全スタッフに伝達の勉強会を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、年1回の外部研修でしか行っていない。 またリモートでの研修もあるが、交流が出来るほどではない。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向などの確認を行うが、認知症もある為、具体的な話を伺うことが困難な状況にある。入居後の生活の中での会話などで意向などをくみ取るように心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者が、ご家族からの意向の確認を行っている。その情報はアセスメントシートやケアプランに記載され、スタッフ間で情報の共有が行われている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の時点では主に管理者が本人やご家族から情報収集を行っている。必要なサービスの意向を伺い、それをケアプランに反映してサービスの提供や支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	動ける方には、身の回りの事や簡単な家事などをお願いし、一緒に行っている。声掛けは一方通行にならないように注意しながら行なっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではなかなか面会が出来ない状況が続いている。しかし、ホーム便りなどで近況の報告や、電話で近況を報告などしているが、なかなか現状を理解していただけないことがある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会は家族のみのが続いており、馴染みの人との面会が出来ていない。また、外出し、馴染みの場所に行くことも出来ていない。	病院受診の帰りを利用し自宅周辺のドライブをしたり面会や電話での連絡を取り持つ等、繋がりを継続できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座る位置に注意しながら、気の合う方が近くに集まれるようにしている。また、居室で過ごされたい方には、居室で過ごしていただくなど、好まれる過ごし方に合わせている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると、家族とのつながりはほとんどなくなるのが現状。 しかし相談等があれば支援するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の為、本人から具体的な要望等は少ないが、ご家族にお願いし、昔から使用している物などを持って来てもらい、自宅に近い環境に近づけるように努めている。		日々かかわりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を把握しており職員はそのサインを見逃さずケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族に面会を行い、生活歴などの情報把握を行なっている。また、かかりつけ医などからも情報を頂き、アセスメントにまとめ情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はほとんどの方がホールで過ごして頂いているので、見守りをしながら心身の状態は把握している。体の負担を考慮し、居室で休んで頂く入居者もいるが見守りを行うなどして、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はユニットリーダーが作成している。本人や家族から要望や意見があった時、また本人のADLが低下した時などはユニットスタッフで話し合いを行い、改善できるように取り組んでいる。		利用者や家族の要望、職員の意見、申し送りノートの情報をもとに現状に即した介護計画を作成している。家族から車椅子であっても外出させたいなど要望を受け計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録している経過記録や、業務日誌、バイタルチェック表や排便チェック表を使用しながら個別の記録を行なっている。また特別な事があれば申し送りノートへの記入を行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の場合には日用品の買い物など、個別対応を行なっている。 また、体調不良時の病院受診なども家族と医療機関との調整を行ない、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は小学生が来るなどして交流があったが、最近では行われていない。但し、小学校の駅伝大会などは敷地内から応援できるので、皆で応援を行なっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームは、経営母体が医院という事もあり、かかりつけ医との連携は密に取れている。先生もこまめに往診に来られ適切な医療の提供は行えている。	母体の医院をかかりつけ医として日ごろから連携して緊急時も適切な医療が受けられる体制となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきなどを適切に伝達を行なっている。受診時や急変時の対応も適切に行なえていると思う。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医からの紹介によって行なわれるので早期に、そしてスムーズに行なわれている。入退院時の対応は基本的に管理者が行い、情報提供も行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	東海の里での最後をどのようにして迎えるかを管理者とご家族で話し合いを行い、その後スタッフに方針に関する情報の共有を行い、支援している。ときに主治医からの説明も行なわれている。	主治医がホームでできる事を説明し利用者、家族本位の支援をしている。開所当時から看取りは行い、職員は急変や事故発生時の為の研修や勉強会を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。しかし長期間訓練を行っていないので不安が残る。初期対応に関しては管理者の指示によって実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災発生を想定した避難訓練を行っている。また、津波発生時を想定した避難訓練や、消火訓練は年に1回行なっている。	夜間想定避難訓練をしている。川が近い事もあり玄関先から高台への避難場所が設置してある。利用者の重度化に伴い管理者・職員はもしもの場合の行動をシュミレーションしており日頃から注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する支援では、他の方に聞こえないように配慮している。 また大きな声で行動を制止するなどは行わないように注意している。		入浴・排泄等に於いては誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。衣類の汚れた利用者には本人の居室や脱衣所に誘導し更衣するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の思いを聞き、本人が望まないことは出来るだけ行わないようにしている。入浴拒否の方にも日をずらすなどの対応を行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などは時間が決まっているのである程度入居者様に合わせてもらっているが、入居者様のペースに合わせられるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容さんが来られ、入居者様の散髪を行なっている。 また衣類の選択が出来る方には行って頂くなどの支援を行なっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っている。 但し定期的に行事食を行うなどして食事が楽しみの一つになるように支援している。 食後のお盆拭きなどをお願いしている。		庭先で採れる季節のツブキの皮むきなど利用者の能力に応じ参加してもらっている。 重度化に伴い食事を忘れていた利用者には職員の技術や工夫で食事への関心を引き起こしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量は量って提供している。毎月体重測定を行ない体重の増減がないかをチェックし、食事量を調整している。 10時と15時に水分補給を行なっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。 自分で行なえる方は声掛けでしてもらい、出来ない方は職員が口腔ケアを支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢化や重度化があり、オムツの使用率は増えている。排泄パターンに合わせて便秘薬を使用している。排泄の訴えがあれば直ぐに対応している。		利用者の中には布パンツの方もいる。重度な利用者を職員三人でトイレでの排泄を支援している。又尿量に応じパット類も本人に合わせ検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、便秘になっていないかが分かるようにしている。また日頃から水分や食物繊維の摂取に心がけるようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回の方と3回に方がいる。入浴拒否がある場合は無理強いないように心がけている。体調によっては清拭対応も行なっている。		利用者の重度化に伴い職員三人対応での入浴介助の方が数名いる。利用者、職員共に負担がありシャワー浴になっている。好みの湯温や衣類交換を拒否する利用者もいるがその人に合わせて入浴を支援している。	現在まで28名の看取りを行い利用者の重度化は顕著である。特に入浴に於いて利用者、職員の負担が大きくなっている為現状に合った環境設備を整える事を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の様子を見て、眠たそうときや疲れているようなときは居室にお連れし、ベッドに寝てもらおうような対応を柔軟に行なっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が1冊のファイルに纏められ、それを見ることで内容確認は行っている。また内容が変わった時は、申し送りノートで情報の共有を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、また食後の片付けを手伝ってもらったりと、それぞれの役割をお願いし、手伝ってもらっている。気分転換の支援はあまり行っていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響やスタッフ不足で、入居者様の要望に沿った外出支援は行っていない。以前は家族との外出も行っていたが、今はできていない。		近くに新しい公園ができ春桜見をした。そばの道路には歩道があり車の通りも少ない事もあり散歩をしている 日常的に園内は自由に散歩が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は家族管理でお願いしているが、数名の方は施設で少量のお金を預かっている。 現金を使うことは少ない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはなかなかできないが、ご家族や友人から手紙が届くことはある。 また施設に電話があった時は、おつなぎしている。電話を使用することも可能。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は温度や湿度が分かるようになっており、調整を行なっている。 壁には季節感が分かるような装飾を施している。	フロアと台所間のカウンターが低く利用者は調理している職員が近くにいるという安心感がある。フロアから続くサンルームにはソファや畳が敷かれくつろいで季節の変化が感じ取れるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、多目的室にはソファを設置している。 自由に使用できるようにしており、好みの場所で過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前はご自宅からなじみのものなどを持ってこられる方が多かったが、最近はそのままで持ってこられる方が少ない。写真などを飾られている方はいらっしゃる。	各居室には大きめのクローゼットが設けてあり殆どの利用者が思いの物を収納している。床にジョイントマットを敷いたり手摺に緩衝材を施すなどその人に応じた居室作りがしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方には転倒防止用にセンサーマットを使用するなどして安全な環境作りに努めている。またトイレが分かるように表示をしたりするなどの対応をしている。			